

正誤表

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。
ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

<午後 > 論文の解法テクニック 改訂新版 第1版 第2刷

No	訂正箇所	正
1	P.92 および P.96 問3 赤字(太字)部分の トピック, および, 赤線(太線)部分の 抜け	<p style="text-align: right;">アプリケーションエンジニア試験 平成17年秋 午後 問3</p> <p>問3 アプリケーションパッケージなどを利用したシステム構築について</p> <p style="text-align: center;">•分社化</p> <p>新規事業の立上げや<u>新会社の設立</u>などで、会計・販売・人事などの業務システムを短期間に構築しなければならない場合がある。この場合、全システムを新規に開発するのではなく、グループ会社で実績のある既存のシステムを導入して業務ごとに組み合わせたり、業務に対する適合性が高いと判断した<u>アプリケーションパッケージ</u>(以下、パッケージという)を新たに導入して、既存のシステムと組み合わせたりすることがある。</p> <p style="text-align: right;">フィットギャップ分析 ● ギャップ分析のための機能定義書 ●</p> <p style="text-align: center;">•販売, 会計システムの構築</p> <p>例えば、<u>会計システム</u>には新規事業や新会社の業務に対する適合性が高いパッケージを新たに導入し、<u>販売システム</u>や<u>人事システム</u>には業務プロセスや制度などが類似しているグループ会社の既存のシステムを利用する場合がある。</p> <p style="text-align: right;">人事業務のアウトソーシング ●</p> <p>このような場合、アプリケーションエンジニアは次のような点に着目し、システムを構築することが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務間の<u>連携</u>が損なわれないようにすること ● データの二重入力 ・システム間の<u>データの整合性</u>が失われないようにすること <p>データの整合性が取れない ● •マイナス売上データの発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージや既存のシステムの仕様に合わせて業務プロセスを変更すること ● •新会社の業務プロセスをシステムの機能に合わせる <p>あなたの経験に基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。</p>